

<データ活用：移動に伴うデータ>

AIオンデマンド交通は“面”の移動を提供しており、その移動データの利活用事例を示す

1. 業界や自治体の枠を超えた移動ニーズの把握

通学や部活動の地域移行の教育分野、介護や車椅子移動での福祉分野、駅や空港からのラストワンマイルでの観光分野など、移動ニーズの把握が重要と考えている。

目的に合った移動、例えば、子供の帰宅は家まで届ける、福祉や介護では車揺れへの配慮、観光では旬な観光地に案内する事である。効率的で持続的な公共交通を提供する為、これらの業界や自治体の枠を超えた移動ニーズをまとめて対応する必要がある。その為には、各社単独ではリーチできていない隠れた移動需要の推定に対し、お互いにデータ提供する仕掛けが必要である。

例えば、アイシンが把握できている降車位置だけではなく、降車後の移動履歴による移動目的の把握等があり、これには個人情報にも配慮したデータ形式のオープン化が重要と考える。



例：停留所の 延べ乗車回数

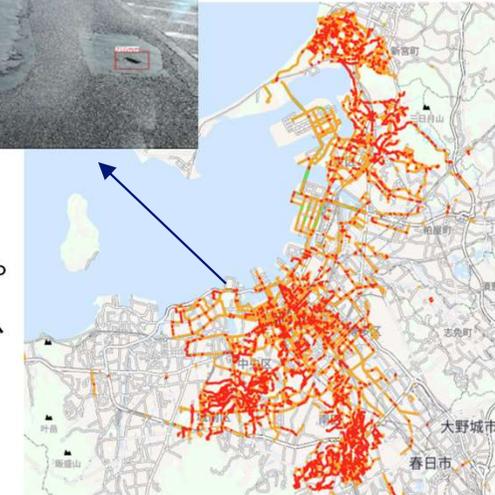
2. 道路補修に関わるデータ活用

デマンド交通車両の移動データと他サービスのデータとの連携活用事例として、デマンド交通（チョイソコ）と道路補修支援（みちログ）の事例がある。

- ・みちログは車両カメラ映像と車両挙動データを分析することで、道路補修の必要性を判定するサービスであるが、デマンド交通車両に機材を搭載し、移動軌跡と共に分析している。
- ・道路補修の担当者は、すべての道路を、自ら検査すること無く、補修対象物の検知ができ、未検査道路のみをパトロールすることで高効率となる。



カメラ画像の一例
(ポットホールの検知)



例：チョイソコ車両による網羅性
(2024年1月走行分からのIRI※推定図)

※ International Roughness Index：国際ラフネス指数

§感じている課題

- ・データ形式の標準化/オープン化（統一フォーマット、正規化、所有権の整理など）
- ・データ受け渡し時のセキュリティ要件（特に個人情報に資する部分）

§ AIオンデマンド交通を軸とした共創“データ活用・司令塔”の課題について

<司令塔：連携の媒体>

1. 多用途での連携

デマンド交通を、子供の学校送迎、観光での移動と併用している市町村もある。そこには、組織を横断してリードされる司令塔として、使命感あふれる担当者、もしくはトップが必ず存在している。これを偶発的な話としないためにも、司令塔の仕組み化が必要である。



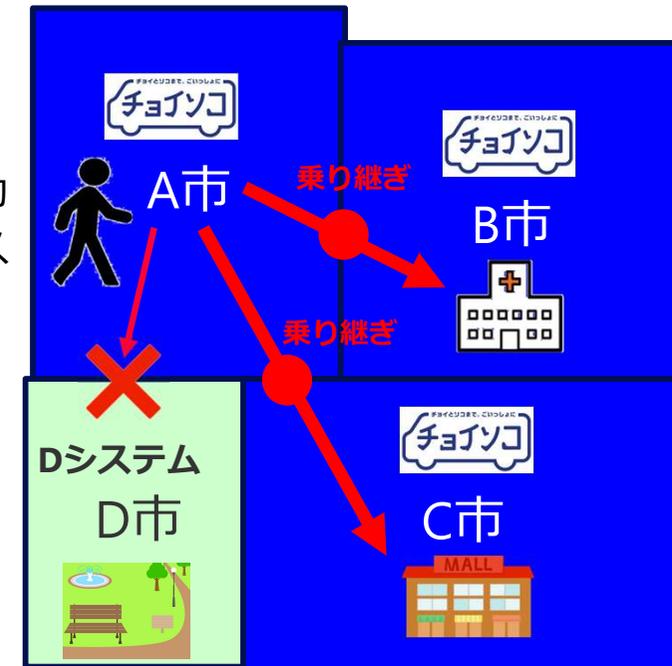
例：公共交通 x 教育



例：公共交通 x 観光

2. 広域連携

現状のデマンド交通は、市町村単位での導入が主であり、隣り合う市町村への移動には制約がある場合が多い。しかし、実際の住民の移動先は、隣町の病院やスーパー、公園等、個人毎の地域生活圏で行われており、自治体の枠を超えた移動のニーズも強い。例えば、各市のITシステムを連携することで、移動をシームレスにつなげる事ができるようになり、住民が求めている移動ニーズにも合致する。しかしながら、どこの市町村が司令塔になるか？という役割分担や費用負担割合の課題があり、自治体主導のデマンド交通においては実装が進んでいない。



例：市を跨いだ広域連携での移動イメージ

§ 感じている課題

- ・ 担当者の主体性への依存
- ・ 司令塔（リーダーシップ）に対するインセンティブの仕組み
- ・ 司令塔の指示に基づいて柔軟に連携できるITシステムとデータ形式